

過去のCQ誌記事等

JJ1SXA/池

TWO-FORTY誌も第100号を迎えました、1981年12月に創刊号が発刊され、一時期休刊もあったが、37年間もの間、良く続き、第100号を迎えました。

240グループもスタートして2年後に、分裂の憂き目にも会いましたが、各局の努力で、そこから立ち直りました。

隆盛を極めていた頃のCQ誌記事(ホームページに掲載したものです)、第100号記念で、思い出としてこちらに転載させていただきます。

写真を見ると懐かしい局がいるが、名前やコールが思い出せない局の方が多く、全く記憶に無い局もいる。

1、CQ誌1985年5月号に掲載された記事(編集部の富永氏が取材してくれた)

写真は総会の集合写真、総勢33局プラス2nd2名、現在の総会の参加局数と比すと雲泥の差

2、CQ誌1985年5月号に掲載された記事、執筆者は、故JM1WRU/藤田OM

上部の写真は、2エリアで行われたミーティングの集合写真だが、当然1エリアのメンバーも参加している、当時はまだ週休2日制では無かったので当然日帰りだ、早朝出発、名古屋で朝食、ミーティング解散後、お茶飲みをして帰途についた、皆さん若かったからできた、下部の写真は、京王プラザホテルで行われた第4回忘年会だ、2エリアからの参加もあり大盛況、現在の人数からは想像できないのでは無いか。

3、CQ誌1985年4月号に掲載された、JJ1SXBの記事

この頃は、CWを覚えて電信級(現3アマ)、2アマを目指そうと盛り上がっていた時期で、JJ1SXBの1アマ合格でますます盛り上がった。

4、CQ誌1985年5月号に掲載された、JJ1SXAの記事

240のモバイルも遠距離交信に燃えていた時期で、モバイルだってこんな遠距離交信ができるんだとアピールできた。

以上の記事は、PDFを別途WEBにアップしてありますので、拡大して閲覧ができます
下記URLで閲覧してください(コピペで開けば、直接ページの該当箇所へ行きます)

http://www.inv.co.jp/~ike/top_ol-7.html#20



50.240 ● モービル愛好者の集まり ●

SSBモービル・グループ 第9回会

去る3月17日0900から、東京・世田谷にある高井戸地域区民センターにおいて50MHz SSBでアクティブなモービル・グループの総会が行われました。

このグループは、クラブではなく、50MHz SSBのモービル運用者、およびモービル運用に興味を持ち、固定局からモービル局とQSOできる方など、モービル愛好者主体の集まり。また、規則などを定めず、紳士的な運用を基本に誰でも自由に参加できるよう配慮して、全国的な50MHz SSBモービル局の呼び出し周波数を確立しようとしているものです。そして、その運用方法の中には“より速く、より強くをモットーに技術向上に努め、他局への技術協力を惜しまない”とあり、前向きに50MHz SSBの発展にメンバー全員が努力されています。

今回の総会では、JA1DQE、JA1FYQ、JA1RZD、J11BGT、J11SXA、J11SZ1、J11WRUのみなさんが世話役となり、JA1DQEの司会で進められました。

参加者全員の自己紹介に続き、電波伝搬実験計画の説明がJA1FYQから行われました。この実験というのは、東海地方とのQSOにおいて、どのような経路で伝搬するかデータを集めるほか、伝搬実験において、各地点（移動地など）の状態を多変量解析によりランク付することを検討しようというもの。また、アンテナの型式、ゲイン、偏波なども考慮して、5月26日を予定とし、各局の賛同のもとで進めていくということです。

次に、J11WRUから同グループの東海地方との関係、状況として、50.240MHzで2エリアとQSO可能な時間は、毎日曜0630-0730で、“%λホイップ”を

使うモービルから交信できた、といったことが紹介されました。

さらに、この%λホイップについては、J11SXAより、1C-502+%λホイップでは10kmが交信限度であったが、%λ+TR-9300にしたら、パワーとアンテナのグレードアップにともない、受信範囲が大変広くなり、現在では30-50kmとの交信が可能になったと、その性能について発表がありました。ただし、%λは長いので、木の下やトンネル（ガード）などを通る際、不便を感じているとのことでした。

続いて、JA1MOAから、ノイズが少なく快適に2エリアと交信するには、朝、太陽が昇る前後の時間帯がF.B.、また、そういったチャンスを使つてのDXタイムを作りたい、とDX QSOのヒントがありました。

総会の締めくくりはジャンク市があり、その中には、TS-820X...25k円、TR-1300+VL-1300...10k円など、格安の品が並べられていました。

取材 編集部 JF1UMK 富永



世話役を務めてくれたみなさん



▲格安品いっぱいジャンク市でした



▲電波伝搬実験計画やアンテナ、モービルでのQSO状況報告など、次々と発表が続く

CQ/85.5

われら ハム仲間 43



50.240MHz SSBモービルグループ

私たちのグループは、効率のよい50MHz SSBで各地のモービル仲間との交信を楽しむに、いまだ未知の部分の多いときれている魅力を秘めた6mバンドで、より効率のよい運用をはかるため、興味を持った者たちが集いました。5年ほど前よりモービル局同士の出会いの周波数として50.240MHzを設定し、最初は数局のみでしたが、近ごろは固定局も含め百数十局という多数の参加局の輪が広がってきました。

グループの特色としては、クラブを組織せず、あくまで6m SSBモービル愛好者の集合であり、モービル局または支援の固定局相互のQSOを楽しむ50.240MHzを介しての愛好者の集まりであるということです。

50.240MHzはモービル優先ということにはなっていますが、固定局の助けなくしてはQSOが成立しない場合も間々あり、モービル運用局、固定運用局にかかわらず、気軽にブレイクいただけることを心待ちしています。

多数の待機局がスムーズな運用をはかるための約束ごととして、QSOのあい間に若干のブレイクタイムをとり、耳をすますこととロングQSOになりそうな

場合はなるべく適当な周波数にQSYするということがらいでしょうか。

モービル局あるいは固定局多数が毎日必ず運用しています。意外にあなたの近くを走行中のモービル局がいるかもしれません。また思わぬ遠距離で走行中のモービルからCQが出ているかもしれません。ぜひワッチしてみてください。

さて未知の部分が多いとされている6mバンドで、効率のよい運用をはかるために誰しも考えることですが、設備をグレード・アップして、より速くのハム仲間との交信をしてみたいという欲望が芽生え、リグの調整、アンテナの改良に取りかかったわけです。今こそ10W機単体で350kmぐらいの距離のある交信を、グラウンド・ウェーブによりモービル局相互でできるようになりましたが、当初既製のリグ、アンテナによるセッティングでは夢みたいな話でした。OM諸兄による指導よろしく、リグのシビアな調整、改善、5/8λモービルホイップ・アンテナの製作、取り付け、モービルのボンディングによる自己ノイズの軽減策など、総合した成果の現れです。

東京と佐渡ヶ島、蔵王と乗鞍、いずれも直線で350kmぐらいありますが、やす

やすとモービル同士のQSOができたときはたいへんな喜びでした。さらにより状態でのグラウンド・ウェーブによる交信距離更新を旨とし、伝搬実験の計画を練っています。興味のある方はいっしょにトライしてみませんか。

近年2エリア（名古屋中心）6m SSBモービルグループとの交信を足がかりに、他コールエリアのアマチュア局との連携を深め、全国的な50MHz SSBモービル周波数の確立を目指していますが、何とぞご意見、批判などがありましたら、CQ出版編集部気付けにぜひうけたまわりたいと思います。

参加局の構成は、メカに強くなめんど見のよい人、理論派の人、コンテストに燃える人など多岐にわたりますが、OM、ビギナーの方にかかわらず、和気あいあいとした雰囲気大切にしており、夫婦そろってのおしどろハムが10組ほどいるのも特色です。また、CWのライセンスを併せて持っている局も多く（40%ぐらい）、モービル走行中にCW QSOをするという特技を發揮されるユニークなOMもいます。

モービルの機動力を生かしてのティーブレイク、ランチタイムに集まれば無線談義、車談義に花が咲きます。誰しもお空で3、4回つながらればお顔が拝見しなくなるのが常ですが、多分にもれず、240メンバーもより多くの方とのコンタクト、アイホールQSOの機会を願っています。特に決まった規約などありませんので、ぜひ声をかけてみてください。

最後に、年間行事としては春に定例総会、12月初旬に忘年会を催します。ほかに個別の企画としては、お花見、ドライブ、釣り、見学会、移動運用などを適宜行っています。無線は楽しく、アマチュアライクに、

de JMW1WRU 281



CQ '85.5



No. 40

JJ1SXB 池 恵美子



CWに魅せられて 新米ハムの1アマまで

★★

51年8月0日 帰宅した主人から突然、「アマチュア無線の試験を受けないか」といわれる。よく飲み込みず、しばらく説明を聞くが、あまりよくわからない。夫婦二人だけなのだから、同じ趣味を持ってほより楽しく暮らせるだろう。また、別々に車に乗っているのだから便利だと、その程度にしか理解できなかつたが、国試の申し込み期日が直前に迫っているとのこと、とにかく申し込みだけはしておく。

57年2月0日 運転免許を取得した同居中の妹が、今度は無線の試験を受けようかとい出した。52年2月に開局したものの、2局交信しただけでQRTが続く。最近また少し始めた矢先の私は、よいことだと勧めると同時にいっしょに勉強しようとして、電信を覚えることにした。

57年5月1日 電信級の試験結果が届いた。見ると合格の二文字。ハガキを何回も見直しながら部屋を飛び回った。思い出せば試験当日、最初に聞かせてくれるA-Zまでの練習テープが、一字も聞き分けられないまま本文にはいり、受信したもののまったく自信はなく、送信術は乗権しようかとさえ思った。その結果が合格通知。合格はしたもののこのままではQSOは無理。それなら勉強ついでに2アマも受けてみよう。

58年5月5日 2アマの資格も取れたことだし、やればできると主人におだてられ、50MHzのCWバンドで初めてCQを出す。CQを出しながら、誰からも呼ばれなければよいと矛盾した気持ちになる。一度目応答なし、「よかった」といって「CQを出しながら呼ばれなくて喜ぶ人

がどこにいる」と主人に笑われる。二度目応答があり、信号は59。早さはなんとかなりそうだったと思ったが、いざQSOとなると思ひのほか早い。ファイナルを送りほっとしたのも束の間、またコールされ、信号は弱いし、早い、必死で耳を澄ますが、心臓の鼓動の方が強く、試験を受けてる心境、手に汗を握るとはこのことだ。たった2局の交信だったが、私にとって記念すべき日となった。

59年6月0日 ちょっとしたきっかけで始めたCW。以前はうるさいとか聞こえなかつた音が、最近では耳に心地よく、コンテスト時のハイスピードの音にうっとりし、QSOができるようになってからはますます楽しくなり、英語が苦手のため覚えた和文も、気が付くと1アマを受ける結果となつていた。覚えようと決めた当時は、今日は疲れた、今日は調子が悪い、と覚えたはずの文字も、次に新しい文字に取り組むときには前の文字は忘れてしまう、そんな苦労との連続も、少しずつ進歩していく過程が喜びでもあった。学科は問題集を勉強したのみだが、2アマからの引き継ぎで自信はあった。ただし、帰宅してみると不合格通知が届いていた。QSOのときは充分受信できるのに、ハガキを見つめながら、10月期には絶対合格、とファイトが湧く。

59年7月13日 だいぶCWのQSOにも慣れ、夕食の後片付けもそこそこに、日課のワッチを始め、タイヤルを回すとアクティブ局のコールサインが聞こえる。さっそくCQ、何回か出し続けるが、応答はなし、コンテストになるとにぎやか

なのにとくちが出る。今日は空振りかとおきめかけたとき、知り合いのOMさんからコールされ、和文QSO。時間の経つのも忘れラグチューに花が咲き、だいたい符号が乱れてきた。早くエレキを使いたいが、試験が終わるまでは縦横れ電鍵オンリー。そして、まだまだビギナーを痛感する。

59年12月23日 今日は、某スナックで仲間のOMさん方が開いてくれたお祝ひ会に出席。思いがけない方も駆けつけてくださり、感激。

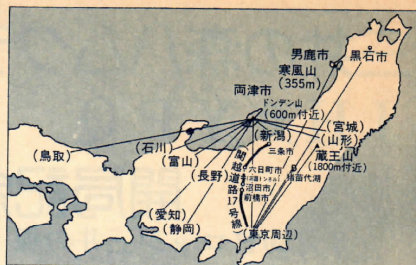
アルコールもはいり、カラオケにもぎやかに、10数年ぶりに踊ったジルバもなつかしく、いただいた寄せ書きの色紙に「1アマ合格おめでとう」の文字もまぶしく、晴れがましい。

勤めと主婦業に追われながらここまでこられたのは、ただただ回りのすばらしいOMさん方のおかげといまさらのように思う。

60年2月6日 QRV3年あまり、最近6mCWバンドで少しアクティブ程度の私に、本稿の原稿依頼が無い込み驚いた。お断りしようかと思ったが、毎号の執筆者は大OMさんばかり、そんな中たまには私のような新米もよからうと、億面もなく書くことにした。毎日根気よくテープを開き、問題集を繰り返し読み、QSOを楽しみ、そして試験は終わった。あとは技術を磨き、コンテストに、和文QSOに一人前のCWウーマンとなり、サイクル22にはDXを追いかけようと思は膨らむ。夢のままで終わるか現実のものとなるか……。 de JJ1SXB

CQ'85.4

写真に写るラックは、昨年末、部屋のリフォームのついでに処分した、30年以上使った物だったが…



6mSSBモービル移動運用記

50.240SSBモービルグループでは、「より強く、より遠く」を合言葉に、モービルからの遠距離交信確立のため、モービルのノイズ対策、リグの感度アップ、アンテナの研究などに務めております。

私も、常々モービルからの遠距離交信を心掛けており、今までにも、立川市をモービル移動中に米沢市のモービル局、名古屋周辺の固定局と、また、佐渡ヶ島に移動したときは、半固定にしたモービルから、東京都内走行中のモービル局と交信した実績があります。

昨年、夏季休暇を利用して、XYL(JJ1SXB)と新潟方面から東北方面にかけてドライブ旅行し、思いがけない所からの遠距離交信ができました。

設備は、ニッサン・シルビアのリヤバンパーに8λホイップ・アンテナを取り付け、リグはトリオのTR-9300(受信ブリアンプ組込)を使用しました。

8月9日夕方、立川市を出発し、所沢インターより関越道路にはいり、新潟方面に向かいました。前橋インターまでの間は、都内方面の固定局、モービル局と安定した交信ができました。国道17号線に出て、しばらくはその状態が続いた後、一部交信不能の地点もあり、沼田市に近づくと、またメリットがよくなりました。三峠峠では急激なロケーションの変化のため、QSBがあつて、メリット2に落ちる所もありましたが、交信は継続してできました。

三國トンネルを抜けて、新潟県にはいった所では、安定した状態がしばらく続き、だんだん聞こえなくなってしまうが、六日町インターから再度、関越道路にはいると、東京方面各局(都内、立川市、田無市、川崎市他の固定局)の信号はメリット5で入感し、ピークでは59のレポートをもらいました。この状態は、長岡ジャンクションを經由、北陸自動車道にはいってもずっと同じ状態です。三条・燕インターを過ぎて、ファイナルを送るまでメリット5で交信が続きしました。

新潟からはフェリーで佐渡ヶ島に渡り、

両津市のドンデン山の中腹(標高約600m)にモービルを半固定にして、1エリア、2エリアのモービルグループの仲間とスケジュールQSOしましたが、固定局はもちろんのこと、都内、福生市、相模原市、春日部市、柏市を移動中の各モービル局ともFBな交信ができました。

その後、アンテナを3エレメントの水平八木に替えて、短時間JCCサービスをしました。新潟、長野県のほか、富山、石川、宮城、山形県をはじめ、1エリアは山梨を除く全都県、2エリアは静岡、愛知県、遠くは4エリアの鳥取県の局にもコールされ、たいへんおどろきました。

佐渡に3泊の後は、新潟に引き返し、国道7号線を北上、秋田に向かいました。村上市を走行中、都内を移動中のモービル局が入感、急いでブレークをかけ、メリット5で交信し、鳥海山からの交信を約束し、鳥海ブルーラインに向かいました。鳥海山ではノイズが多く、山頂まで約7キロぐらいの所を道路が走っており、都内方面の信号はまったく受信できませんでした。ただし帰京後のレポートによると、発信したCW信号は319で入感していたとのことでした。

今回の移動では、鳥海山からの交信を目標にしていたので残念に思っていました。男鹿半島を走行中、都内方面の信号が入感し、当方の信号も確認され、場所も男鹿とわかったようでした。入道崎を回り、寒風山有料道路で山頂(標高355m)をめざしましたが、山頂よりもむしろ少し下り始めた所より場所があり、都内、大宮市の固定局とメリット5で交信できました。後は十和田湖より八甲田山の近くを走り、黒石インターより東北自動車道に向かいましたが、インター手前約200mの所で、都内で交信中の信号を確認し、レポート交換をして、高速道路にはいれば、もっとよく交信できるだろうと期待しましたが、結局はそれきりでした。

仙台南インターで、東北自動車道から離れ、蔵王山に向かいましたが、頂上へは行かず、蔵王エコーラインの途中で、

都内の固定局と安定した状態で交信ができました。また、次に向かった猪苗代湖の周辺も、都内方面に対しては非常によく、走行しながらの交信ができました。後は都山インターより東北自動車道に戻り、一路東京へとハードなスケジュールながら、ドライバー、オペレーターを交代で無事旅行を終えました。

モービルからの10Wの電波もかなり遠距離まで届くということ、固定局の垂直八木アンテナ(スタックの方も含め)のビームの威力、山岳回折等の電波伝搬のおもしろさをつくづく感じました。

今回の移動は、ドライブ旅行が主目的だったため、偶然に遠距離交信ができたというにすぎませんが、今度は事前調査を十分に、余裕ある日程で、再挑戦してみたいと思います。

JJ1SXA 池 宏昭



CQ.'85.5

上写真は、SXBの何台目かの愛車シルビア、ニューシルビアから何台乗ったか、いよいよ最後のシルビアも2017年末に処分した、マニアのいる車で二十年乗っても100K円以上の値段が付いた

しっかり5/8λのモービルホイップが付いている

下写真、二人は若い♪♪ 後方に映るのは秋田・男鹿半島の寒風山頂上の売店の建物